

安全・安心な魅力ある木島平エコヴィレッジ・ゼロカーボン推進事業

取組に至る背景・事業の目的

豪雪地域や特別豪雪地域に指定される北信地域は、積雪がネックとなり、太陽光発電の普及が遅れる原因となっている。そこで、脱炭素社会の推進の啓発と主体的に担う人材を育成するため、太陽光発電の効果を目に見える形とするモデルハウス事業と、地域の人が協力して自らの手でソーラーパネルを作成する体験教室を開催。

併せて、冬の積雪時にも対応する形で、脱炭素社会を推進するモデル展開を進める。

事業内容

【村民主体独立型太陽光発電】

太陽光発電に取り組む人材育成と効果を目に見えるようにするため、村民の手で太陽光パネルを作成し、人が集まる公共の施設を活用しソーラーパネルを設置した。

太陽光発電のシステムは、外から見えるよう、リチウムバッテリーを屋外のボックスに収納し、発電と使用量が見て分かるよう工夫するとともに、積雪時の対応も考えて設置を行った。また、ソーラーパネルの製作については、近隣市町村との協働の取り組みも行った。

【小太陽光発電を推進する事業】

木島平村中学校と協力し、授業の中でソーラーパネルを自らの力で製作しました。自宅に持ち帰り LED ライトを点灯させたり、スマホなどに充電することを通して、興味と関心を深めエコヴィレッジの推進と 2050 年のゼロカーボンを実現する若い世代を育てる取り組みを行った。

自分でメッセージをいれた太陽光パネルを作った中学校は、全国でも例がないと思う。



【皆でマイパネルを作ろう】

事業効果

(1) 脱炭素社会を主体的に担う意識とその人材の育成

太陽光パネルを作成するための機械（ラミネーター）を使い、自分たちでソーラーパネルの作成を指導できる人材が育ち、行政と協働による事業を推進する基盤が作られた。

(2) 自然エネルギーの普及と脱炭素社会への積極的な取り組み

災害等による全電源喪失時に備えた、安全・安心な地域づくりが前進した。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

工夫したことは、作成の際にパネルのガラスの内側に自分の名前を入れ、「世界に一枚しかないマイパネル」であることや環境問題について全員がそれぞれメッセージを書いたこと。中学生に教える時は、電気の流れを分かりやすくするように全体の設計を考え、作りやすい大きさにセルをカットした。

苦労したことは、インドから取り寄せたガラスが輸送中に何枚も割れたこと。このような想定外のこともあったが、中学校の先生や保護者の協力で、クラスの全員が自分の手作り太陽光パネルを完成できた。作った太陽光パネルと LED ライトを嬉しそうに家に持ち帰る姿を見た時は感激した。

今後の課題は、木島平村の道の駅にあるラミネーターを活用し、「自分で太陽光パネルを作る楽しさ」を多くの人に体験してもらうこと。また、雪国の魅力を活かした太陽光発電の設置方法と、電気の消費量を減らす意識を広めていける取組みを考えていく。

【選定のポイント】

太陽光の活用が難しい豪雪地帯において、ソーラーパネルを手作りするワークショップや学習会を開催し、太陽光の活用を住民が身近に感じる機会をつくった。住民の理解醸成や近隣自治体からの関心の高まりを活かして、ゼロカーボンの取組がさらに展開することが期待できる。

団体名	特定非営利活動法人 太陽と水と緑のプロジェクト	事業タイプ	ソフト・ハード事業
連絡先	090-3914-0275 (長野事務所)	事業費	1, 817, 862円
ホームページ		支援金額	1, 408, 000円
https://blog.goo.ne.jp/khelghar.jp-tj			
メールアドレス	npo.swgp@gmail.com		